

〈資料紹介〉

稲波家資料について

PD 学芸員 門 井 慶 介
(日本古代史)

大谷大学博物館では東本願寺の家臣であった稲波家に関する資料を所蔵している。稲波家文書についてはすでに貴重書マイクロフィルムが目録があり、資料の詳細についてはそちらを参照いただきたい。今回紹介する資料は、2006年度に稲波家よりご寄贈いただいた「稲波家資料」である。東本願寺第14世琢如・15世常如・19世乗如の書状や墨蹟などが軸装されたもの60点、和歌や漢詩に関するものや日常的に使用していたと思われる百科事典などの冊子体のもの122点、計182点をかぞえる。今回はこのうちの5点をここで紹介することにした。

こうみんよちのず
「皇明輿地之図」 1 舖

紙本木版 継紙 江戸時代

中国・明代の全国地図。刊記に「嘉靖丙申金谿呉悌校梓 崇禎辛未孫起枢重刊 臨泉堂翻刻」とみえ、嘉靖15年(1536)に江西省金谿県の呉悌が刊行、崇禎4年(1631)に孫起枢が重刊したものを日本の臨泉堂が翻刻したものである事がわかる。上部に中国全国の地図を載せ、下部には13省それぞれの府州県数と名称を列挙する。また地図中には南海の朝貢国を列記する。地図の右側に日本や朝鮮半島が簡略に描かれている。

本品と同様の資料は国立公文書館(旧内閣文庫)・神宮文庫・横浜市立大学学術情報センターなどが所蔵し、東北大学附属図書館には唯一「臨泉堂翻刻」の記載のない資料が所

蔵されている。東北大学図書館の名品展図録には中国でも現存が確認されていないとされており、大変貴重な資料である。



『^{えほんしやほうふくろ}絵本写宝袋』 1冊

紙本木版 袋綴 江戸時代

江戸時代の画譜の端本。作者は江戸時代中期の画家の橘守国(橘有税とも、1679～1748)。大坂の人で狩野派の鶴沢探山の門人。その画法をつたえるため多くの絵本を刊行し、浮世絵にも影響をあたえたことで知られる。

本書は全9巻10冊からなり、画家のために絵を種類別に分け、画法を論じるものとして作成された。享保5年(1720)に初版の刊行、明和7年(1770)に再刻、元治元年(1864)にも版行されており、かなりの人気を博していたと思われる。人物や神、獣などが中心で、画題は日本の古典だけでなく中国の古典からも取り上げられている。

本品は巻9上の1冊。刊記を欠いており版行年については不明。麒麟・沢獣(狛犬)・獅子・獬豸・豹・虎・豹・象・犀・熊・猪・犬・猫・猿といった動物が樹木などと一緒に描かれている。

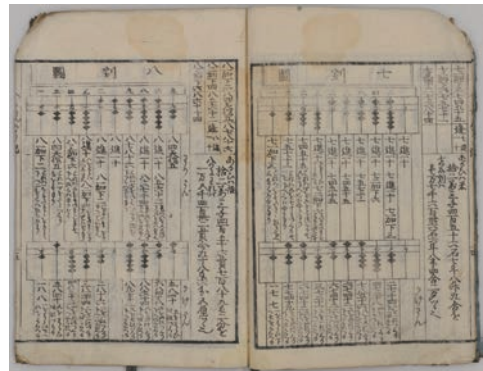


『^{かいざんじんこうき}改算塵劫記』 1冊

紙本木版 袋綴 江戸時代(文政7年＝1824)

江戸時代のそろばんの解説書。本書は、刊記に「文政七甲申新刻」とあり、文政7年(1824)に新刻されたものであることがわかる。そろばんでの割算九九(割声)について2から9の段を解説したもの。

『塵劫記』は寛永4年(1627)に吉田光由が出版したもので、幾度かの改訂版と数多くの海賊版が出版されるほどの人気を博し、『塵劫記』＝数学の教科書という意味を持つようになった。そのため、「〇〇塵劫記」「塵劫記〇〇」といった書名をもつ類似書が、江戸時代から明治時代にかけて300種類以上も出版され、本書はその内の一つと考えられる。同一名称の出版も多く、本書と同名の『改算塵劫記』が安政2年(1773)に出版されているが、本書とは内容を異にする。



『^{とうしよぞうほきんもろずいたいせい}頭書増補訓蒙図彙大成』 2冊

紙本木版 袋綴 江戸時代

江戸時代の絵入り百科事典の端本。朱子学者の中村楊斎(1629～1702)が絵入り百科事典として『訓蒙図彙』(20巻目録2巻)を寛文6年(1666)に刊行し人気を博した。元禄8

年(1695)には大幅に増補改訂された『頭書増補訓蒙図彙』(21巻)が刊行され、そのおよそ100年後の寛政元年(1789)に刊行されたのが『頭書増補訓蒙図彙大成』(21巻目録1巻)である。

本品は巻14～19と巻20・21の2冊にあたる。本書は上部に注釈(頭書)を配し、下部に複数の絵図を一面に載せる点に最大の特徴がある。絵は下河辺拾水による。改訂を重ねるごとに項目の増減や頭書の内容に変更があり、それぞれ見比べることでその時代の学問水準を比較することが可能である。なお、巻21には「算術」「立花」などの芸に関する項目が新たに立てられており、巻末の跋文には安永9年(1780)に刊行された『都名所図会』の流行に関して取り上げている部分があり、本書の刊行にあたっては『都名所図会』の存在があったことがうかがえる。



『^{てつせかい}鉄世界』 1冊

紙本活版 明治時代(明治20年=1887)

明治時代の冒険SF小説。「翻訳王」と称された森田思軒(1861-1897)の初期の翻訳作品。原作はフランスの作家ジュール・ヴェルヌ(1828-1905)の「Les Cinq Cents Millions de la Béguin」で、本作はアメリカのキングストンの英訳から翻訳したもの。明治20年(1887)3月から7月にかけて郵便報知新聞で「仏、曼二学士の譚」として連載され、9月に『鉄世界』と改題して集成社から発売された。当時は、本作をもとに中国・朝鮮でも翻訳されており、このようなジャンルの作品が世界中で支持されていた事がうかがえる。本作と同じヴェルヌ原作・森田思軒翻訳の『十五少年』は近代日本少年文学の古典的作品としてよく知られている。

